

西側が、ロシア-ウクライナ和平交渉を「妨害」： イスラエル前首相

<https://www.rt.com/news/570994-bennett-israel-ukraine-talks/>

RT

February 5, 2023

モスクワもキエフも共に、停戦を受け入れる準備があるように見えた、とナフタリ・ベネットは言う。



平和は、ロシアとキエフの間で、紛争の始まった直後に、合意できたかもしれなかった。しかし、西側のキエフ支持者たちは、この2つの隣り合う国の間の交渉を、妨害したのだ、とこの会議を仲介した、イスラエル前首相 Naftali Bennett は言った。

イスラエルの「チャンネル 12」に対して、土曜日、ほとんど5時間ものビデオ・インタビューをしたベネットは、仲介者としての彼の努力は、モスクワとキエフの両側で譲歩する用意がありそうで、休戦の合意がほの見えたとき、今にも成功するかと思われた、と言っている。

だが、そうはならなかった。理由は——「西側に、ロシア大統領プーチンを叩き続けようという、合意された決定があったようだ。つまり、より戦闘的なアプローチということだ」と彼は言った。

インタビューの司会者が、アメリカとその同盟国は、モスクワとキエフの間の和平交渉が「妨害された (blocked)」という意味かと訊ねると、前首相は、「基本的にその通りだ。彼らはそれを妨害したのだ」と返答した。

「それは休戦に持ち込むよい機会だったと、はっきり言おう。しかし、それが正しかったと言っているのではない」と、彼は明言した。

ロシアの外務省報道官マリア・ザハロワは、このテレグラムのイスラエルの政治家の暴露に反応して言った——「これはもう一つの白状ですよ。西側は、ウクライナの平和には、初めから興味がなかったということです。」

ベネットによれば、彼の調停は「完全な細部に至るまで、アメリカ、フランス、およびドイツによって調整されていた。」昨2月、紛争が起こった後、西側の指導者たちの間には、これにどう対処するかについて、一致したアプローチはなかった。すなわち「(英首相) ボーリス・ジョンソンは攻撃的方針を取り、(独首相) オラフ・ショルツと(仏大統領) エマヌエル・マクロンは、より現実主義であり、(米大統領) ジョー・バイデンは、その両方だった」と彼は言った。

モスクワとキエフの間の、17 か 18 ほどの和平交渉の草案が、彼を中心として用意されていた、と前首相は言った。ベネットは、いろんな事柄のある中で、プーチンから取りつけた約束があって、「プーチンは、自分の命を心配しているゼレンスキーを殺すつもりはない」ということだった。このほかに、ロシアの指導者には、ウクライナの非軍国主義化という彼の要求を取り下げる用意があり、一方、ゼレンスキーは NATO への加入という彼の野望を諦める約束をしていた、と彼はつけ加えた。

和平についてのすべての討論は、2022年4月1日、ウクライナの権威者たちが、キエフ郊外のブチャ (Bucha) で、ロシアが、市民を殺したとって非難したときから途絶えた、とベネットは指摘した。

キエフによるこの主張——これはモスクワが拒絶し、つくり事だと言ったものだが——は、両サイドの高位者が、イスタンブールで会合したすぐ後で起こったもので、それは全体が、合意に向って進展中と思えたときのことだった。

ロシアとウクライナの代表者たちは、それ以来、交渉の席に付いてはいない。モスクワは外交的な手段によって、危機を解決する用意があると主張しているが、和平の提唱はキエフによる発言がなければならない、と言っており、西側の調停者はこれまでのところ、それに応えていない。

[訳者 Greatchain 注]

イスラエル前首相によるこの重要な告白（発）は、RT とは別の Sputnik International にも、より詳しく載っているが、我々にはこれで十分であろう。

要するに、この件の責任は西側にあるということである。彼らに「ウクライナのため、ロシアのため」という配慮は微塵もなく、この両者を徹底的に争わせて、疲弊させ、無力の状態にした後で、「漁夫の利」を得ようとした——そう考えるべきである。西側の一人ひとりの考えは微妙に違っていても、全体としてはそうであることが、これでよくわかった。ロシアだけを悪者にしようとする西側全体の狡さが、これで再確認された。前回と今回にも引用された、マリア・ザハロワの言葉の通りである。

西側のこの態度によって、ウクライナ、ロシアの双方から、莫大な量の犠牲者と物的被害が生じ、それは今も続いている。これは戦争犯罪であり、告発されるべきは西側である。この告白のおかげで曖昧さは払拭され、世界の悪の構図がますます明らかになった。わが国の指導者も、自分の責任を自覚すべきである。

[参考記事、RT, Feb. 4] ——テロの背後の論理：なぜウクライナは、ドネツクの市民地域を攻撃し続けるのか？

<https://www.rt.com/russia/570954-logic-behind-ukrainian-terrorism/>